上台橋

「神奈川宿歴史の道」は、西側の上台橋より始まります。

かつてこのあたりは、潮騒の聞こえる海辺の道でした。この場所から見えた朝日は、ひときわ美しかったのでしょうか。『神奈川駅中図会』にも、その姿が描かれています。

この地に橋ができたのは、昭和五年（一九三〇）。開発がすすみ、切り通しの道路ができるとともに、その上に橋が架けられたのです。

この橋を渡り東へ坂道を上りきったあたりに、関門跡の石碑が建っています。

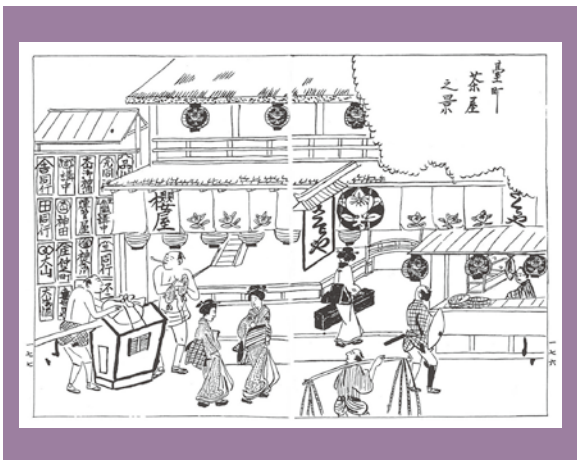
「神奈川駅中図会 西台之図」横浜市歴史博物館所蔵

台町の茶屋

現在の台町あたり、ここはかつて、神奈川湊を見おろす景勝の地でした。

弥次さん・喜多さんが活躍する『東海道中膝栗毛』にも、「爰は片側に茶店軒をならべ、いずれも座敷二階造、欄干つきの廊下 桟などわたして、浪うちぎはの景色いたってよし」とあります。「おやすみなさいやーせ」……茶店女の声に引かれ、二人はぶらりと立ち寄っています。鯵の塩焼をさかなに一杯ひっかけた後、気ままな旅を続けたのでした。

下の図の中に見える「さくらや」が、現在の料亭田中家のあたりだといわれています。この付近の地形は、今でも旧東海道の面影を残しています。



「金川砂子附神奈川史要 台町茶屋之景」名著出版

神奈川台の関門跡

台町のこの周辺に、神奈川台の関門がありました。

開港後、外国人があいついで殺傷されましたが、その犯人はなかなか捕えられませんでした。イギリス総領事オールコックを初めとする各国の領事たちは、幕府を激しく非難しました。そこで幕府は、横浜周辺の主要地点に関門や番所を設け、警備体制を強化しました。

この時、神奈川宿の東西にも関門がつくられ、そのひとつが西側・神奈川台の関門です。

文久二年（一八六二）の生麦事件のさいには、島津久光の行列の通過を待って、ただちに関門を閉じ、イギリス兵の追撃を封じたといわれています。

金刀比羅神社

田中家の前をさらに下ると、大綱金刀比羅神社の前に出ます。この神社は社伝によると平安末期の創立で、もと飯綱社といわれ、今の境内後方の山上にありました。その後、現在の地へ移り、さらに琴平社を合祀して、大綱金刀比羅神社になりました。かつて眼下に広がっていた神奈川湊に出入する船乗り達から深く崇められ、大天狗の伝説でも知られています。